

## 有事に備え、避難訓練

山田高校では6月17日（水）、二部構成により第1回避難訓練が行われました。

第一部では、「2階特別教室より火災が発生し、有害なガスが発生している可能性があり、全校生徒は口にハンカチを当て直ちにグラウンドへ避難する」という想定で行われました。生徒一人ひとりが校舎から緊張感をもって安全かつ迅速に避難することができました。

第二部では、災害時に本校が避難所になったときのための設営訓練が行われました。各学年に設営内容が割り当てられ、1・2年生は畳敷き、3年生は長机の設置及び本校に設置されている山田町防災倉庫より第一体育館へ物品の搬入に奮闘しました。

本校は、東日本大震災発生時、町指定の避難所として最大約1,300名の方々を利用しました。当時のことを教訓として語り継がれ、避難訓練の際には役場職員の方々を招き、指導を仰ぎながら迅速に避難所の設営することが一つの訓練として定着しています。

訓練終了後、役場総務課危機管理室の方より講評をいただきました。

- ・訓練でできないことは、本番でもできない。
- ・畳間には、最初から必ず通路を作る。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、畳間のスペースは2m空ける。
- ・山田高校は、通常約250名の避難所となるが、感染症を考慮し通常の1/3の90名が妥当となる。
- ・濃厚接触者を特定するため、必ず避難所名簿を作成する。等々

生徒一人ひとりは、避難訓練と併せて新型コロナウイルス感染症対策について再認識し、多くのことを学ぶことができました。

最後に学校長から講評があり、「命ほど大切なものはない」という言葉に全員が共感し、第1回避難訓練を終えました。



校舎からグラウンドへ避難



畳敷き



山田町防災倉庫から物品の搬入



役場総務課危機管理室の方より講評